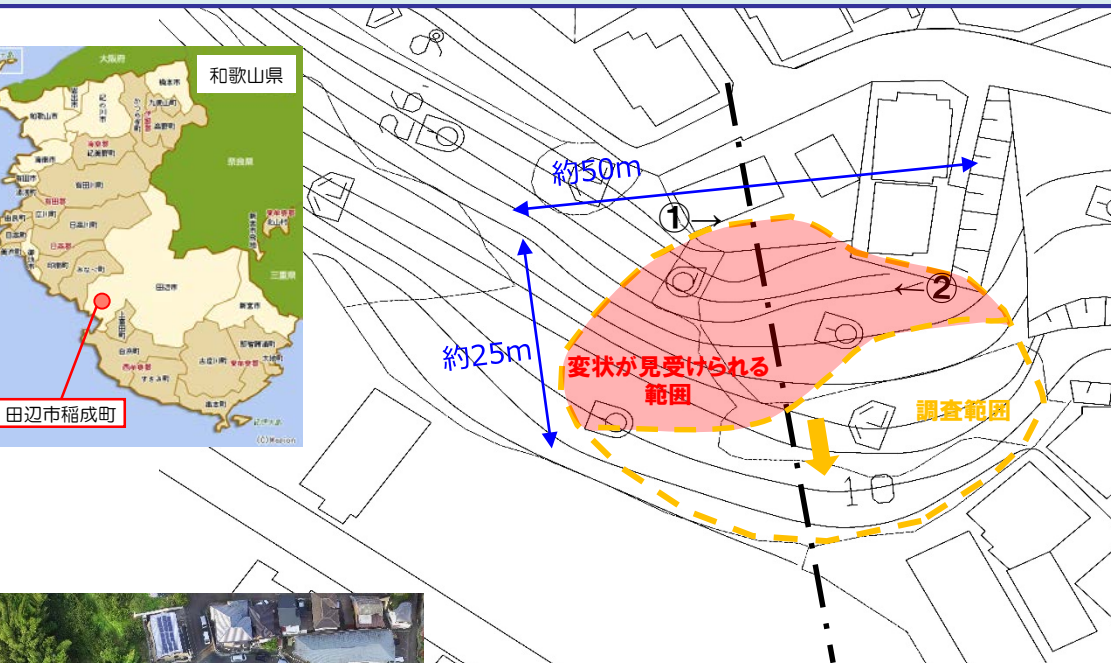


土砂災害専門家による現地調査 (和歌山県田辺市稲成町)

平成30年6月20日の梅雨前線に伴う豪雨により、和歌山県田辺市稲成町で宅地に影響を及ぼす斜面に変状が生じました。和歌山県からの要請をうけて、土木研究所は土砂管理研究グループ地すべりチームの藤平上席研究員を派遣し、現地調査により状況把握を行うとともに、応急対策や警戒避難体制等について田辺市長をはじめ和歌山県及び田辺市の関係者に助言しました。また、記者会見を通じて地元には注意喚起を行いました。



田辺市稲成町



田辺市長への結果報告



記者会見の状況

【現象について】

- ・今回、斜面上部を頭部とし、斜面中腹平坦付近を末端とする範囲(幅50m×長さ25m)で、滑動している可能性が高い。
- ・擁壁の変状が顕著であるが、上記のすべり変動に伴うものと思われる。詳細な調査を継続し、機構を特定することが望ましい。

【警戒避難体制及び応急対策について】

- ・伸縮計の一般的な管理基準値(4mm/h)などを土砂災害警戒情報と併用して活用する方法が考えられる。
- ・宅地は常に崩落の恐れがあるため、崩落の影響が予想される範囲の立ち入りは危険である。
- ・調査と並行して、既に変状が顕著な範囲において、応急対策(水抜きや土のう等による押え盛土工等)を実施することで、変位を抑制することが望ましい。



調査箇所全景
(和歌山県ドローン撮影)



現地調査の様子①
(ブロック頭部の状況)



現地調査の様子②
(宅地の変状状況)